

富士通株式会社社内実践事例

社内情報を効率的に利活用できる情報発信基盤を整備
 ～「必要な情報」を「必要な人」に「必要な時」に届ける仕組みを構築～

「多くの部署、多くの人の協力により、36サイトの移行、戦略的に情報発信を行う社内ポータルサイト「さびぶろ」の新設、UXデザインの統一という大きなプロジェクトを成し遂げられました。今後も関連部門と協力し合い、より良い情報発信を目指します」

絹田 昌子

富士通株式会社 プラットフォーム技術本部
 企画統括部 シニアマネージャー



課題

情報発信サイトの操作性向上、情報利活用の強化
 各部門が独自のルールで運営しているため、情報が点在しかつ情報過多で必要な情報を探せない

利用者ニーズに応じた情報の提供
 画一的な情報提供ではなく、利用者ごとに最適な情報を提供したい

拡張性のあるWebサイト基盤
 サイトの増加に容易に対応できる情報発信基盤を展開したい

効果

Sitecoreのレイアウトテンプレートを開発し、UXデザインを統一。利用者の操作性、検索性を向上し情報の利活用の強化とサイト運営作業の効率化も実現した

アクセス状況や行動分析によるパーソナライズ、レコメンドなどのデジタルマーケティングを活用することで、利用者ごとに最適な情報を提供することが可能になった

富士通クラウド「K5」上に「情報発信基盤」を構築。サイトの増加に対して容易にスケールアウトできるマルチテナント形式でサービスを提供

概要

富士通は、富士通クラウド「K5」上に「Sitecore Experience Platform」(以下、Sitecore)をベースとした情報発信基盤FSXP (Fujitsu Sitecore eXperience Platform)を構築。社内に点在していた36サイトを移行、UXデザインを統一し、社内ポータルサイト「さびぶろ」を新設。利用者の使い勝手を向上させ、同時に運用の負荷軽減と効率化を実現した。グローバル化を視野に入れ、デジタルマーケティングを活用し、利用者にとって最適な情報発信に取り組んでいる。

全体的な視点で情報発信する、ポータルサイト

富士通では、社内の各部門がサービスやプロダクトの拡販・技術情報を発信している。しかし、各部門が独自のルールでサイトを運営していた結果、見た目や情報の構成がバラバラなサイトが乱立し、サイトの操作性や検索性が低い、情報の閲覧権限管理が不適切などの課題が山積していた。

これらの課題を解決すべく、サービス・プロダクトの情報を全体的な視点で発信するポータルサイト「さびぶろ」を構築。既存の36サイトに共通のレイアウトテンプレートを作成してUXデ

ザインを統一し、資材名や単語を統一するガイドラインを制定することで、情報の利活用の促進、サイト運営の負荷軽減と効率化を実現した。

「サイト検討会」で基本コンセプトを検討

2015年1月、サイトに関わる10部門でワーキンググループ(WG)を結成。WGの親会議「サイト検討会」では関連部門が参加して情報発信サイトの方向性やコンセプトを決定した。「部門、サイト数、資材数が非常に多く大変でしたが、関連部門と一つひとつ検討しながら決めていきま



村上 行弘
富士通株式会社
プラットフォーム技術本部
企画統括部



森川 克巳
富士通株式会社 IT戦略本部
グループ共通サービス統括部 ワーク
スタイル変革ソリューション推進部
マネージャー

会社概要 富士通株式会社

所在地 | 本店：神奈川県川崎市中原区上小田中4-1-1
本社：事務所：東京都港区東新橋1-5-2 汐留シティセンター
代表者 | 代表取締役社長 田中 達也
事業内容 | 通信システム、情報処理システムおよび
電子デバイスの製造・販売ならびに
これらに関するサービスの提供
ホームページ | <http://www.fujitsu.com/jp/>



した」と、サイト検討会のリーダーを務めるプラットフォーム技術本部 企画統括部 シニアマネージャー 絹田は振り返る。同時に、情報発信基盤の核として選定したSitecoreについては、ワンソースマルチユース、マルチデバイス対応、デジタルマーケティングなどの標準機能、テンプレートで誰でも均一の品質でコンテンツをアップできることにメリットを感じた。

Sitecoreの仕組みを理解し、要件を整理

親会議の下に設けた個別のWGでは、サイト担当者間で細かな調整を行った。サイトの利用者にも情報発信サイトのコンセプトがニーズに合っているか随時確認。「Webアンケート、プロトタイプの試用、座談会などを実施し、利用者にも価値を提供できるコンセプトが確認しながら調整を進めました」と、プラットフォーム技術本部 企画統括部 村上行弘は語る。

2016年1月、サイト担当者からの要件の抽出が完了。しかし、FSXPの構築を担当したIT戦略本部 グループ共通サービス統括部 ワークスタイル変革ソリューション推進部 マネージャー 森川克巳は、要件の整理が不十分だと判断した。「FSXPを汎用的なWebサイト基盤として展開するために、カスタマイズを抑えてSitecoreの標準機能で対応したい。そこで、サイト担当者にSitecoreの考え方、機能や仕組みを説明して理

解してもらい、その上でどうしても必要な機能をアドオンで提供するという形で、要件を整理しました」（森川）。移行検討WGでは、不足機能を運用で代替するなどのアイデアを出し、コンテンツ一括登録などの共通機能をアドオンで対応することに合意した。また、情報漏洩対策には、Sitecoreの権限管理機能により利用者の属性別にコンテンツを出し分けることで対応。さらに、社内のグローバルコミュニケーション基盤などの認証機能との連携により、共通、パートナー様固有、国内限定などのコンテンツの出し分け、社内検索の統合も実現した。

36サイトをクラウド「K5」上でマルチテナント形式により稼働

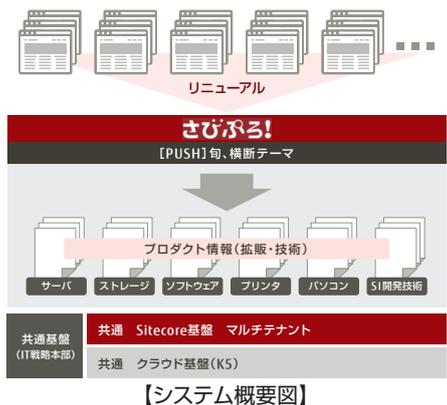
36サイトをSitecore上でマルチテナント形式により稼働できるだろうか。森川は、Sitecore社に事例やノウハウを問い合わせながらPOC（Proof of Concept）を繰り返すことで、その実現性を確認した。また、サイト増加時に容易にスケールアウトできるように富士通クラウド「K5」を利用し、そのアドバンテージを最大限に活かしたFSXPを設計した。

さらに、移行準備環境を事前に準備し、各部門にコンテンツを移行してもらい、順次本番環境に組み込む手法を選択。移行準備環境で慣れてもらうことで、本番環境へのスムーズな切り替えが可能になった。

利用者に必要な情報を発信するために

2017年7月、FXSP上の36サイトと「さびぶろ」が本番稼働を開始。標準的な運営ルールを徹底し、コンテンツの作成・登録作業の効率化を実現した。横断的な情報発信の場である「さびぶろ」と、その下に位置するサービスやプロダクトのサイトの間はグローバルナビゲーションにより縦横自由に移動可能であり、統一されたUXデザインにより直感的なアクセス、商談・SIのフェーズに沿った情報の入手などができるようになった。

絹田は、今後の展望としてデジタルマーケティングの活用を挙げる。パーソナライズやレコメンド、サイト横断的なアクセスログ分析などにより、より利用者の立場に立った情報発信を目指す。資料登録の自動化などによるさらなる作業の効率化、国内・海外拠点のサイトを統合するグローバル化も予定している。



●記載されている内容については、改善などのため予告なしに変更する場合がありますのでご了承ください。（取材日：2017年11月）

製品・サービスについてのお問い合わせは

富士通コンタクトライン (総合窓口) 0120-933-200
受付時間 9:00~17:30 (土・日・祝日・当社指定の休業日を除く)

富士通株式会社 〒105-7123 東京都港区東新橋 1-5-2 汐留シティセンター